

動物実験に関する自己点検・評価報告書

名城大学 農学部

令和 7 年 3 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 ☒ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験取扱要項 ・名城大学農学部実験動物施設管理運営規程 ・名城大学農学部天白キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・名城大学農学部天白キャンパス天白キャンパス内鶏舎標準作業手順書 ・名城大学農学部春日井キャンパス実験動物施設標準作業手順書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内規程として名城大学の「動物実験取扱要項」と農学部の「実験動物施設管理運営規程」を定め、農学部の実験動物施設等に「標準作業手順書」を整備している。しかし、研究機関の長の責務が不明確であり、「動物実験取扱要項」と「実験動物施設管理運営規程」に若干の矛盾点が存在する。
4) 改善の方針、達成予定時期 「動物実験取扱要項」と「実験動物施設管理運営規程」との整合性を図る。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 ☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験取扱要項 ・名城大学農学部実験動物施設管理運営規程 ・名城大学農学部天白キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・名城大学農学部天白キャンパス天白キャンパス内鶏舎標準作業手順書 ・名城大学農学部春日井キャンパス実験動物施設標準作業手順書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 「動物実験取扱要項」と「実験動物施設管理運営規程」に基づき、基本指針に則した任務等を定めた名城大学動物実験委員会と農学部動物実験委員会を設置するとともに、委員会の役割を明記している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 ☒ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験取扱要項 ・名城大学農学部実験動物施設管理運営規程 ・名城大学動物実験計画書等の各種動物実験関係資料
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 「動物実験取扱要項」において、動物実験計画の立案、農学部動物実験委員会での審査、名城大学動物実験委員会での審査、学長による承認および結果報告の手続き等が設定され、各様式を定めている。ただし、様式の提出先が、「学部等動物実験委員会」宛となっており、学長宛と変更するよう規程と様式の修正が必要である。
4) 改善の方針、達成予定時期 「動物実験取扱要項」および様式を改正する。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 ☒ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 ☐ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学組換え DNA 実験規程 ・名城大学組換え DNA 実験規程施行細則
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理を要する動物実験に関し、「組換え DNA 実験規程」と「組換え DNA 実験規程施行細則」を規定しており、これらに基づき名城大学組換え DNA 実験安全委員会を設置している。一方、他の関連委員会や自治体等への申請承認状況について確認できる体制が不十分であり、管理する化学物質の定義が内規等で明確化されていない。
4) 改善の方針、達成予定時期 他の関連委員会や自治体等への申請承認状況について確認できる体制を構築し、管理する化学物質の定義を内規等で明確化し、申請状況が確認できる体制を構築する。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験取扱要項 ・名城大学農学部実験動物施設管理運営規程 ・名城大学農学部天白キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・名城大学農学部天白キャンパス天白キャンパス内鶏舎標準作業手順書 ・名城大学農学部春日井キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・農学部動物実験委員会議事要旨
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設や実験室は、管理者である学部長が申請し、名城大学動物実験委員会が審査し、学長が承認する体制を構築している。また、飼養保管施設と実験室には実験動物管理者を置き、飼養保管施設には標準作業手順書を整備している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☐ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・農学部動物実験委員会資料 ・農学部動物実験委員会議事要旨
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物委員会資料および議事要旨により、農学部動物実験委員会が受理、審議した動物実験計画の状況等が確認できる。一方、名城大学動物実験委員会と農学部動物実験委員会との役割分担に不明瞭点がある。
4) 改善の方針、達成予定時期 名城大学動物実験委員会と農学部動物実験委員会との役割分担を明確化し、名城大学動物実験委員会は大学全体として自己点検評価や情報公開等の役割を担う体制を構築する。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験計画書 ・動物実験経過および結果報告書 ・動物実験（終了・中止）報告書 ・動物実験の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験責任者が提出した「名城大学動物実験計画書」は、農学部動物実験委員会で審議された後、名城大学動物実験委員会での審議を経て学長に提出され、承認または非承認の判断がされている。また、動物実験実施後に「動物実験経過および結果報告書」、「動物実験（終了・中止）報告書」、「動物実験の自己点検票」が提出されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学動物実験計画書 ・動物実験経過および結果報告書 ・動物実験（終了・中止）報告書 ・動物実験の自己点検票 ・名城大学組換え DNA 実験規程 ・名城大学組換え DNA 実験規程施行細則
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 遺伝子組換え動物を用いる実験は、「組換え DNA 実験規程」及び「組換え DNA 実験規程施行細則」に基づき実験の実施体制を定めており、当該実験を適正に実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・飼養保管施設設置（新規・変更）承認申請書 ・名城大学農学部天白キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・名城大学農学部天白キャンパス天白キャンパス内鶏舎標準作業手順書 ・名城大学農学部春日井キャンパス実験動物施設標準作業手順書 ・実験動物飼養保管状況の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設に管理者および実験動物管理者を配置し、協働してその任に当たっている。飼養保管施設に標準作業手順書を整備し、実験動物飼養保管状況の自己点検票を作成している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ☐ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・飼養保管施設入退室記録
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設を適正に維持管理しており、飼養保管施設への入退室を記録している。一方、天白キャンパス実験動物施設では、温湿度や設備機器点検の記録等が不十分である。
4) 改善の方針、達成予定時期 天白キャンパス実験動物施設での温湿度や設備機器点検の記録等について、大学内担当部局と情報交換を行い、管理体制を構築する。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ☐ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☒ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・教育訓練記録
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 随時、教育訓練を実施しており、その記録を保存している。加えて学生実習等において必要な情報をオリエンテーションとして追加教育する体制を持つ。一方、追加教育の内容を標準化しておらず、人獣共通感染症に関する教育内容が不十分である。
4) 改善の方針、達成予定時期 実験動物学会主催の管理者講習会等で得る情報を動物実験委員会で共有し、教育訓練の内容を標準化し、人獣共通感染症に関する教育を充実させる。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・名城大学 Web サイト ・自己点検・評価報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 名城大学 Web サイトに農学部動物実験に関して、自己点検・評価報告書、実験計画承認件数、飼養管理状況、教育訓練実施状況に関する情報を公開している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

特になし。
